



2019. 4. 1

4月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

入園式と新学期に合わせるかのように桜が咲きました。去年は、この時期もう葉桜だったように思います。暦は毎年の繰り返しですが、やはり新しい年度の始まりは、新入園の子どもたちを迎え、新しい先生も加わって、期待や不安や、色々な気持ちが入り混じって、足元がふわふわしているような感じです。深呼吸して、落ち着いて子どもたちを迎えたいと思います。

キリスト教保育を実践する私たちには、保育の道しるべとして「年主題」が年毎に示されます。

「ことばに満たされて～ひびきあう～」とされた今年の年主題の、その「ことば」については、「単に音声だけではなく、気持ち（特に愛情）・表情・まなざし・ぬくもり・声のトーンやリズム・スキンシップ・その場の雰囲気・そして互いの関係性…それらすべてが含まれています。」と解説されています。（キリスト教保育 2019年4月号）

気持ち、表情…。子どもたちを迎えるために、私たちが幼稚園で備えようとするものが全て列挙されています。つまりこの「ことば」は、「幼稚園のすべて」と言い換えることができます。神さまの愛を受けて備えられた幼稚園の全てで子どもたちを満たしていきましょう。この主題は、私たちにそう訴えてきます。

今広まっている、スマートフォン等を用い、インターネットを介して成立するコミュニケーションは、不特定多数への発信と、応答者の実態が見えない返信で成り立っていると思います。

しかし子どもたちの、コミュニケーション、抽象的思考、集中力、他者への思い遣りといった力は、幼児期に他者との良い関係性を築いた経験を基礎に、獲得され成長していくものだと思っています。

一人ひとりの子どもたちが、お互いに、そして先生や、色々な環境と関わっていく。「ことば」をかけると応答がある。その応答にまた応答が返されて…。自分の気持ちや感情を表現すると、それを受け止めて微笑みが返される。誰かと気持ちがつながると、うれしい、楽しい、おもしろい。そうして強められて、もっともっと、しっかり遊びこんでいく。「ひびきあう」は、関係性を作っていく過程です。

短いフレーズに込められた意味をしっかりと捉えて、1年間の保育をすすめて行こうと思います。

年主題 『ことばに満たされて ～ひびきあう～』

<年主題聖句> 「その人は流れのほとりに植えられた木」(詩編1編3節)

4月主題 『であう』

<聖句> 「神は愛です」(ヨハネの手紙1 4章16節)